

ESG 経営に大きく舵を切る



花王株式会社 [代表取締役 社長執行役員]

澤田 道隆
Michitaka Sawada



自然や社会、政治・経済など、私たちを取り巻くさまざまな環境は、非常に早くかつ大きく変化しています。実際、毎年いろいろな事態が生じますが、今は新型コロナウイルス感染症が世界を不安に陥れています。緊急事態が次々に起こることを踏まえると、私たち企業も自らが変わらなければ、社会的役割を果たせないばかりか、企業の存続にも関わります。

では、どう変化するか。そのキーワードはESG（環境、社会、ガバナンス）です。各企業の理念は本質的に不変ですが、ESGを強く意識し、企業理念の使命を果たすためのやり方や取り組み方を変えていかねばなりません。ただ、ESGをベースにした企業活動を継続するには、利益を上げることが必要ですから「人・社会・地球」への貢献と、利益ある成長の両面を意識した取り組みが重要となります。

これは容易なことではありません。ポイントは、3つあると思います。①ESGのとらえ方、②イノベーション、③ESGの理解です。

① ESGのとらえ方

「コスト」がかかるだけというとらえ方ではだめです。ESGという新たな視点で考えると、新たな製品や事業を生み出すことができるはずで、ですから、ESGを「コスト」がかかる活動と見なすのではなく、「投資」と考えることが重要です。また、事業環境変化の早さ・大きさを考えると、積み上げでは追いつかないので、突き抜けるレベルで対処しなければなりません。突き抜けて少し戻るくらいの感覚ですが、これには思い切りが必要ですので、経営の覚悟が重要となります。

② イノベーション

①を実行するには、技術革新による社会変革（イノベーション）の提案が必要です。ただ、技術革新にはプラスとマイナスの両面があります。プラスチックを例にとると、安く・軽く・強く・成形がしやすいという特徴を生かして社会に大きな貢献をしてきた半面、海洋ごみを含めた廃棄の問題が出てきています。つまり、製品やサービスの開発や設計においては、最初の段階からマイナスの部分を考慮した、ESG発想を盛り込むことが重要であり、これによりプラスを大きく生かしたイノベーション提案が可能になります。

③ ESGの理解

①と②を行うのは人ですから、ESGの理解促進を行わなければなりません。人は無限の可能性を持っており、柔軟な動きができます。人間らしさというのは、人と人との間をうまくつなぐことです（これが「人間」の由来）。このつながりは、人だけでなく、社会や地球に対しても同じように大切です。これがESGの理解のベースだと考えます。

花王グループは、以上の内容を踏まえ、昨年、ESG経営に大きく舵を切りました。企業理念を原点に置き、その使命を果たすためにESGを実践していきます。これが企業価値向上につながり、社会から少しでも認めいただける会社になるのではと思います。地球温暖化対策やプラスチック廃棄物対策と並行して、今は新型コロナウイルス感染症対策として感染症予防に全力で取り組んでいるところです。大きな変化が毎年迫ってくる状況において、ESGはますます重要となります。ただ、一企業だけで対応できることではありませんので、皆さんと一緒に取り組んでいければと思います。